

# 飼料イネ栽培試験

福井 弘之・近藤 正治\*

## 要 約

飼料イネ用品種を 6 月 14 日に移植し、生育並びに収量調査をした。出穂が最も早かったのは中国 146 号の 8 月 20 日（移植後 68 日）、最も遅かったのはホシユタカの 9 月 17 日（移植後 96 日）であった。出穂前に台風の暴風雨にみまわれたが、倒伏は全品種無く、病害虫は全品種ニカメイチュウの被害が少しあった。脱粒性は品種間の差があり、モーれつ・タカナリ・関東 206 号が中程度あった。収量は生草収量でモーれつの 448kg/a、中国 147 号、ホシユタカの 416kg/a が多く、乾物収量では、モーれつ・ホシユタカ・タカナリが 145～143kg/a と供試品種の中では多かった。乾物穂重割合は、タカナリと中国 146 号が 50% を越える高い値となった。

## 目 的

本県でも、飼料イネは作付け面積が増加しており、栽培・収穫調製が容易で、収量性の高い有望品種の選定が望まれている。そこで、飼料イネ専用種 7 品種を用いて、特性調査を行う。

## 材料及び方法

### (1) 試験区分

供試品種はモーれつ、中国 146 号、中国 147 号、関東 206 号、タカナリ、ハマサリ、ホシユタカの 7 品種

### (2) 耕種概要

播種日は平成 13 年 5 月 29 日、移植日は平成 13 年 6 月 14 日。区画は 1 区 10m<sup>2</sup>・1 反復・畦幅 30cm・株間 25cm、施肥量は基肥（窒素 6.0kg/a、リン酸 6.0kg/a、カリ 6.0kg/a）追肥は（窒素 3.0kg/a、リン酸 3.0kg/a、カリ 3.0kg/a）、栽培方法は移植、常時湛水。収穫日は各品種糊熟～黄熟期に刈り取り調査。

### (3) 調査概要

生育特性、収量、病害虫被害、倒伏性等

## 結果及び考察

### (1) 気 象

移植期から生育期にかけては、気温は平年より高く、降水量も平年より多かった。出穂期から開花期にかけては、気温は平年並みであったが、降水量は平年より多かった。試験期間中の 8 月 22 日に台風 11 号の暴風雨域に入った。

### (2) 生育・収量調査結果

出穂が最も早かったのは中国 146 号の 8 月 22 日（移植後 68 日）で、次いで関東 206 号、タカナリの 8 月 27 日（移植後 72 日）、モーれつ、ハマサリ、ホシユタカと続き、最も遅かったのはホシユタカの 9 月 17 日（移植後 96 日）であった。出穂前の 8 月 22 日に台風の暴風雨にみまわれたが、倒伏は全品種共なかった。草丈はモーれつの 138cm が最も高く、全品種 100cm を越えた。カン長もモーれつが最も高く 96.7cm、他の品種も 80cm 以上であったが、タカナリは 69.9cm と低かった。収穫時の株数は、11～17.6 と幅があり、品種間の差があった。病害虫は全品種ニカメイチュウの被害が少しあった。脱粒性は品種間の差があり、モーれつ、タカナリ・関東 206 号が中程度あった。脱粒性の高い品種は、翌年に雑草化する可能性がある<sup>2)</sup>ので、翌年に食用米を作付けするほ場での栽培を控えた方がよい。収量は生草収量でモーれつの 448kg/a、中国 147 号、ホシユタカの 416kg/a が多く、乾物収量では、モーれつ・ホシユタカ・タカナリが 145～143kg/a と供試品種の中では多かった。乾物穂重割合は、タカナリと中国 146 号が 50% を越える高い値となった。

表 1 飼料イネ生育成績

品 種	出穂期	収穫期	収穫ステージ	草丈 (cm)	カン長 (cm)	穂長 (cm)	株数 (1 株/本)
モーれつ	9/ 1	10/12	糊熟期	138	96.7	30.5	11.8
中国 146 号	8/20	10/12	黄熟期	120	84.3	21.0	16.0
中国 147 号	9/ 1	10/12	糊熟期	130	95.2	20.2	13.8
関東 206 号	8/27	10/12	黄熟期	122	88.5	21.2	13.4
タカナリ	8/27	10/12	黄熟期	119	69.9	26.0	15.8
ハマサリ	9/ 6	10/26	黄熟期	109	86.0	17.4	17.6
ホシユタカ	9/17	10/26	糊熟期	128	97.9	20.5	16.8

表2 飼料イネ生育成績

品 種	倒伏程度*	病虫害程度*	病 害 虫 名	雑草程度 (%)	脱粒性*
モ ー れ つ	1	2	ニカメイチュウ	10	5
中国 146 号	1	2	ニカメイチュウ	10	3
中国 147 号	1	2	ニカメイチュウ	10	2
関東 206 号	1	2	ニカメイチュウ	10	4
タ カ ナ リ	1	2	ニカメイチュウ	10	5
ハ マ サ リ	1	2	ニカメイチュウ	10	1
ホ シ ユ タ カ	1	2	ニカメイチュウ	10	1

※無または微を1, 甚を9とする評点法

表3 飼料イネ収量成績

品 種	生草収量 (kg/a)	乾物収量 (kg/a)	乾物穂重割合 (%)
モ ー れ つ	448	165	37.4
中国 146 号	352	148	52.2
中国 147 号	416	147	46.7
関東 206 号	288	123	46.7
タ カ ナ リ	146	163	57.1
ハ マ サ リ	313	136	38.8
ホ シ ユ タ カ	416	164	45.6

県内では、水田酪農の経営が多く、一般に冬作のイタリアンライグラスを収穫後、食用米の作付けし、その後、飼料用イネの作付けする手順となるため、5月中旬から6月中旬が飼料イネの移植時期となるが、後作の作付け計画により品種の使い分けが必要となる。また、飼料イネは施肥条件により収量の差が大きく変動し、倒伏もみられる<sup>1)</sup>ことから、ほ場条件を把握した中で、品種の選択が必要である。倒伏しない肥培管理は、作業性、品質等から良質粗飼料生産の重要なポイントである。

## 文 献

- 1) 岡崎勉・中村功男・柿本裕・館孝・谷本和夫・提甫：福井県畜産試験場研究報告 51-28 (1976)
- 2) 鎌谷一也：近畿中国四国地域農林水産業研究成果発表会発表要旨 . 53-68 (2002)